

維持流量の現状

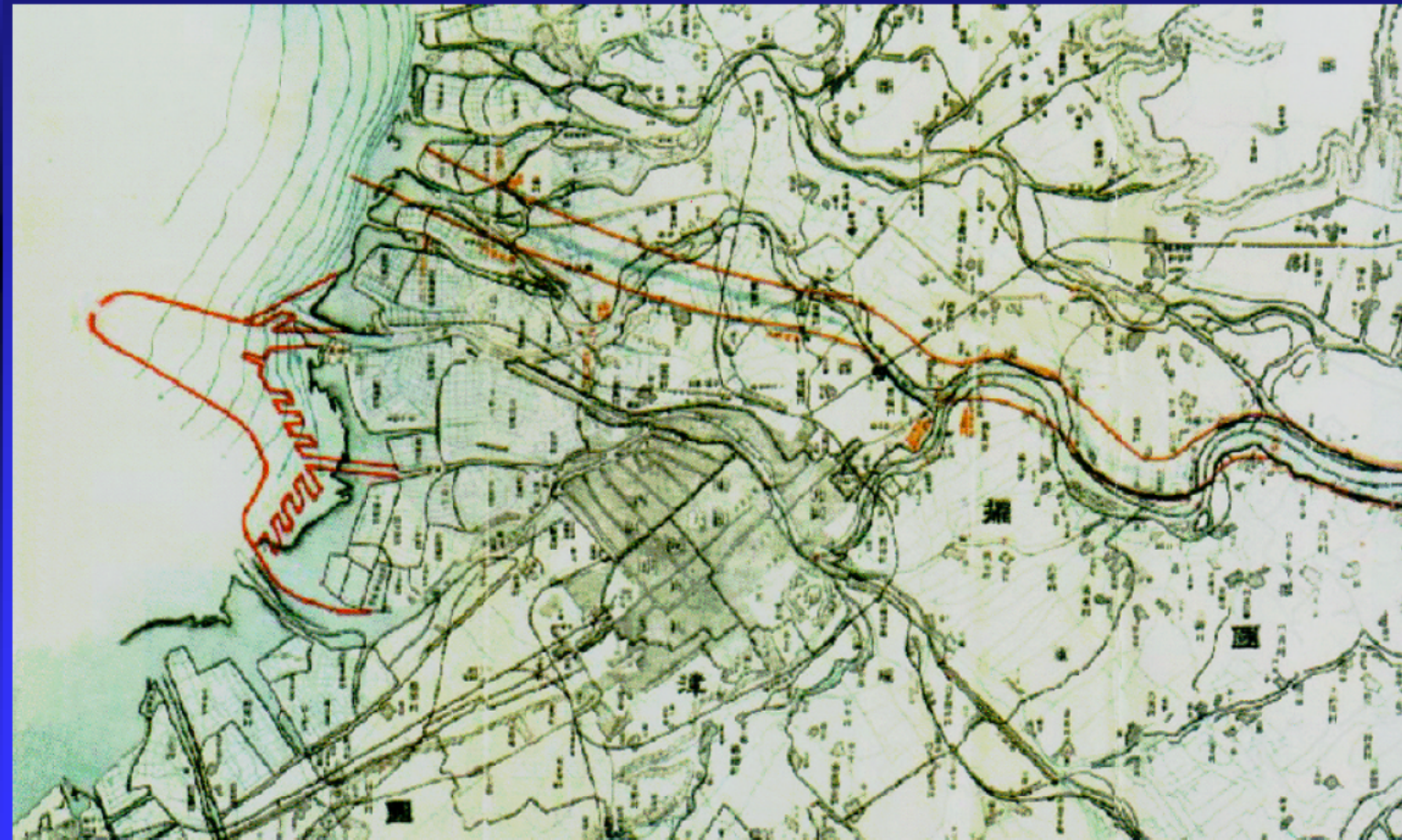
平成14年3月14日

近畿地方整備局

- 1) 維持流量の変遷
- 2) 淀川下流部の現状
- 3) 課題

大川(旧淀川)の変遷

新大阪港の土砂流入を防ぐため、新淀川を開削し、導流堤を築くとともに、河道には粗朶沈床を設置し、低水路の形成を図り、また、河口閉塞防止・水利用のため大川への維持流量を流した。



新大阪港と新淀川の計画図

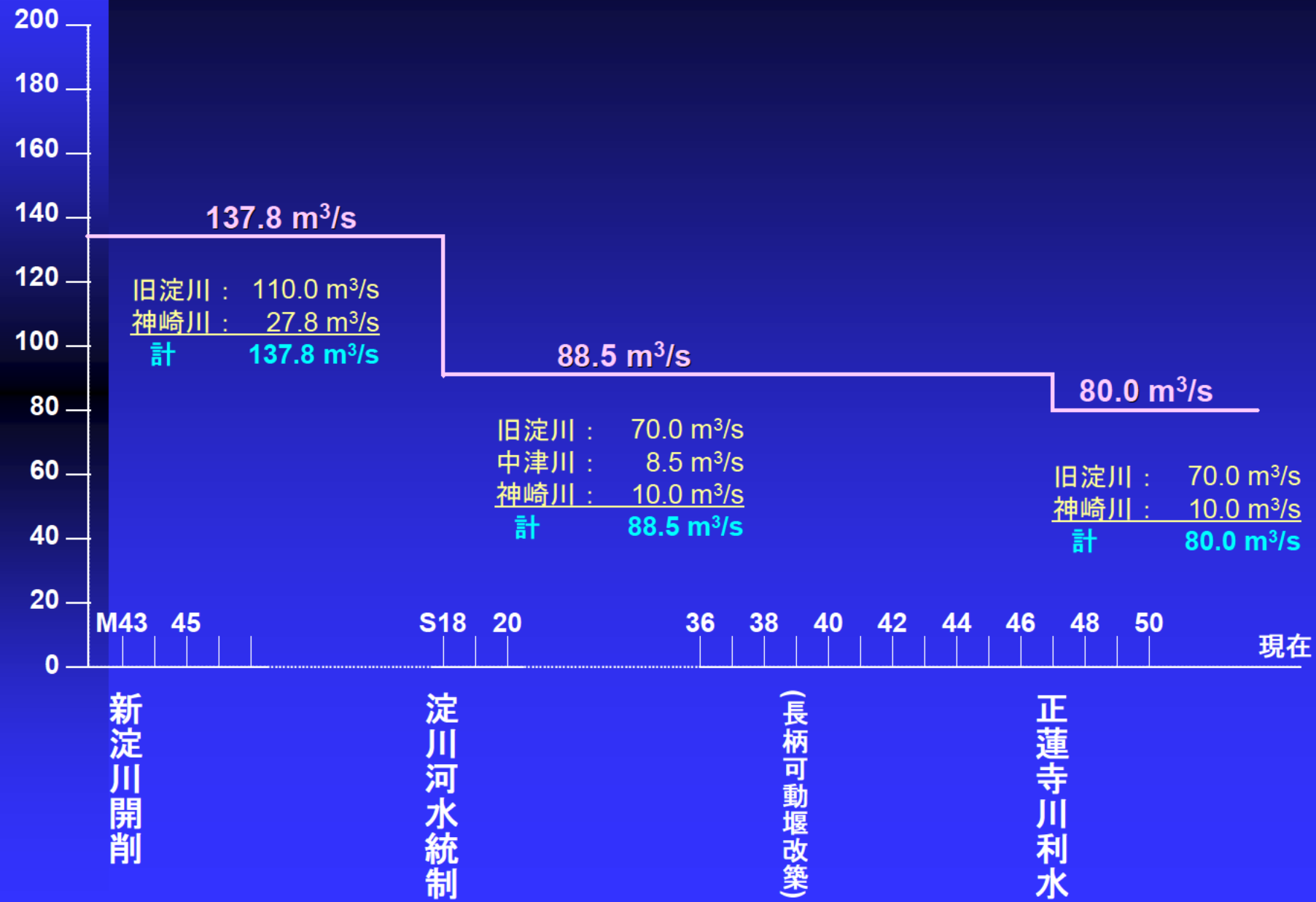
1. 維持流量の変遷

淀川の維持用水の起源は、新淀川の開削以前から道頓堀川等市内河川での舟運・水質等の環境保全等に、不可欠だったもので、開削後も従前の機能を維持するため、計画的に確保している。

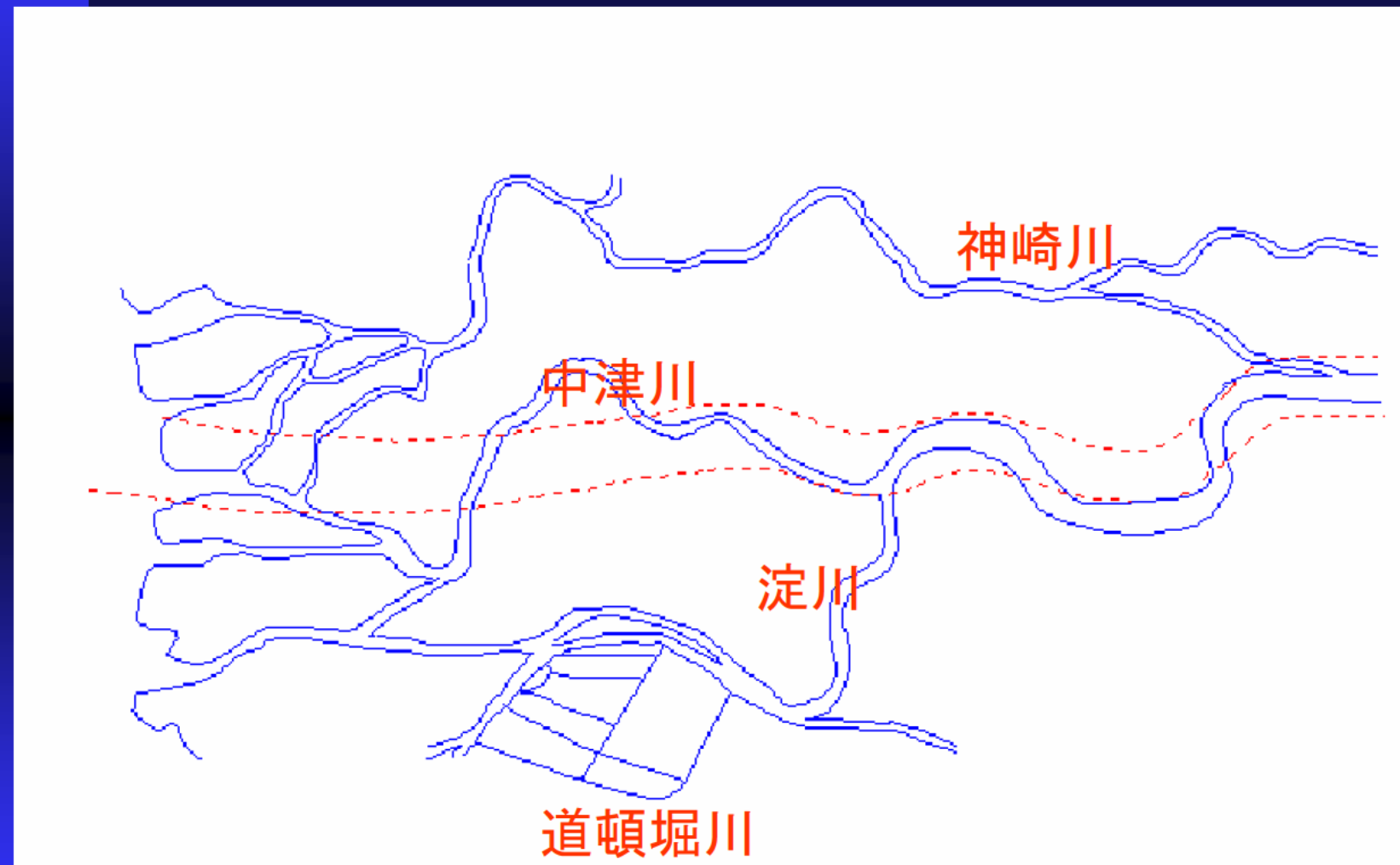
その後、社会状況の変化や施設の建設により、現在では約80m³/sの水量を確保しています。

1. 維持流量の変遷

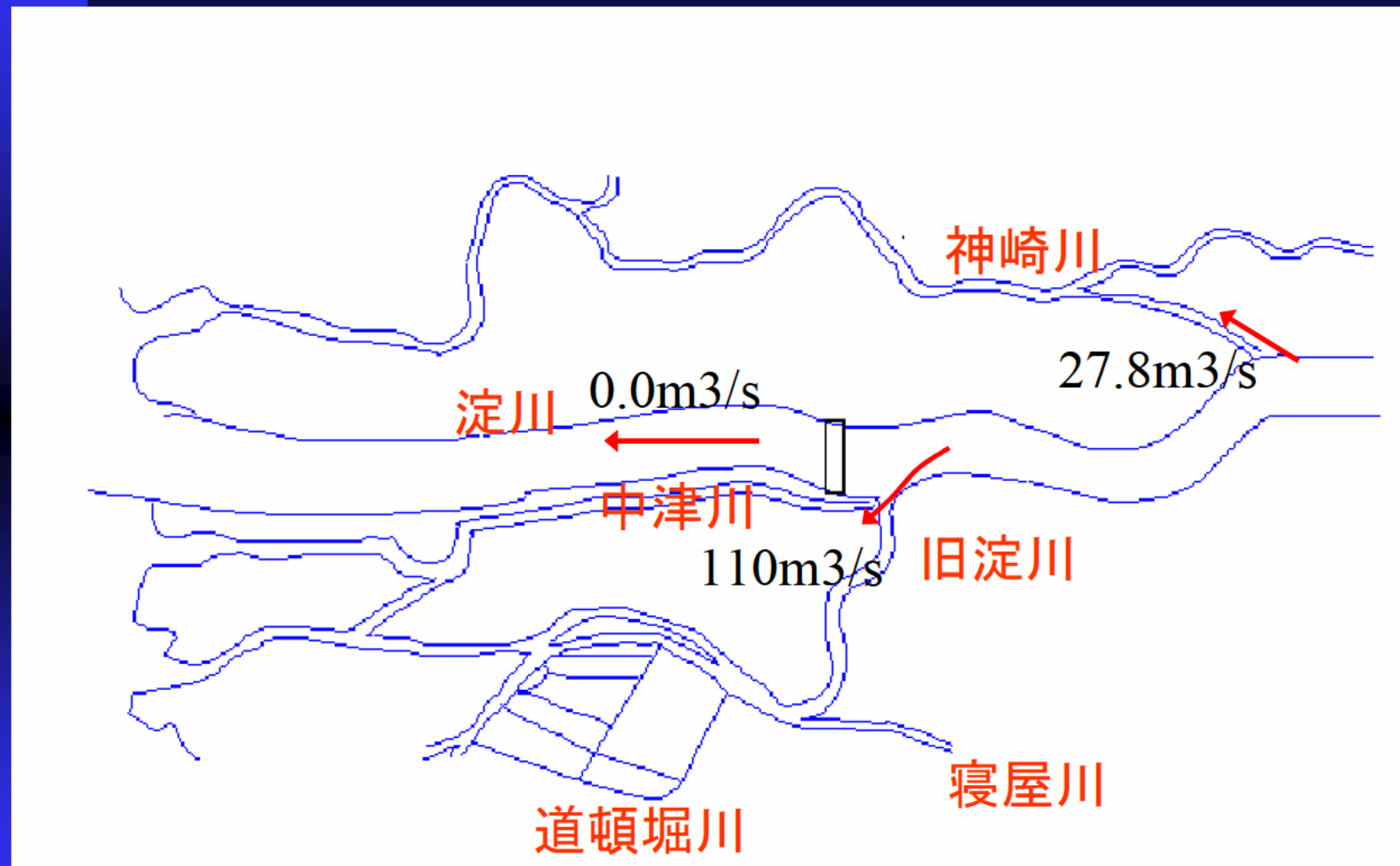
維持流量(m³/s)



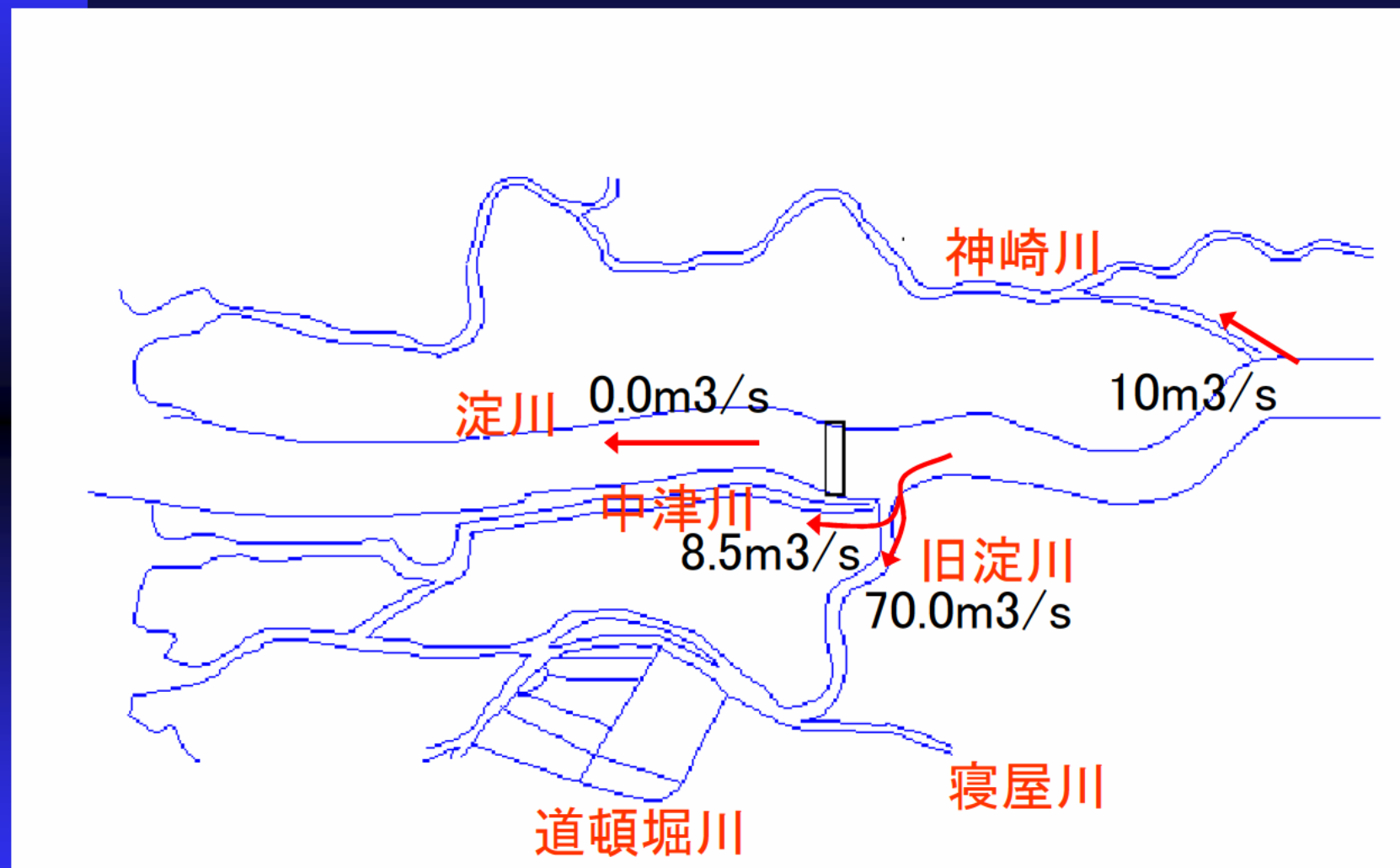
新淀川開削以前



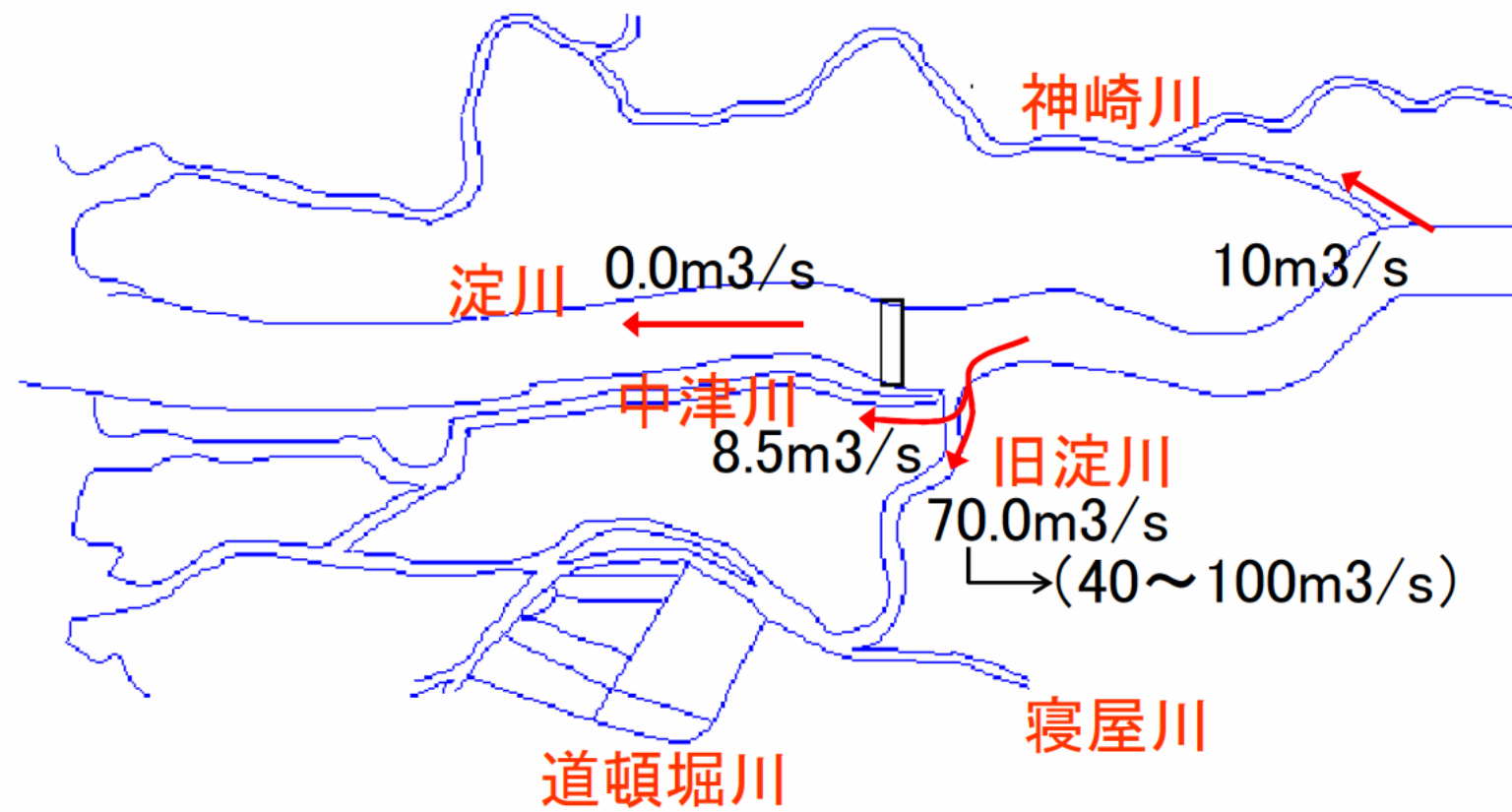
新淀川開削～第一期河水統制



第一期河水統制



長柄可動堰改築



正蓮寺利水以降

